

# 岸劔神社



<http://digitalarchiveproject.jp/information/岸劔神社>



祭神は素戔鳴尊・伊奘册尊・伊奘諾尊・菊理姫尊などである。気良村(奥明方村)字鳥居宮で、ある年連日の旱魃に神主が再三雨乞いをしたが靈験はなく、ついにこの村の氏神の御神体の宝劔を取り出して2間手村(奥明方村)の境の川岸で劔を洗ったところ、急に雲がわき起り雨が激しく降りだした。その劔を岩上に置きなお祈禱を続けていると川水が急に増し劔を押し流してしまった。(以後この岩を神流岩という)数日後山田荘八幡城下の吉田川の岸(現在の宮ヶ瀬橋の下)の岩間に劔のかかっているのを清水彦右衛門がみつけ自分の家に持ち帰った(現在この岩をかかり岩という)。郡上城主遠藤慶隆はそのことを聞き、慶長19年(1614)城下本町の宮ヶ瀬橋の近くに社殿を建立し、この劔を祭り岸劔神社と名付け清水彦右衛門を神職とした。明治19年に現在の社殿の南側の低地に移転し、同40年2月無格社白山神社と合併し、3月27日神饌幣帛供進神社に、同41年12月26日には神社会計規定適用神社に指定され、昭和17年に現在の境内に移った。境内は97坪あり、神明造りの本殿(間口3間・奥行2間)・入母屋造りの幣殿(間口3間・奥行2間)・同拝殿(間口5間・奥行5間)・狛犬・燈籠などがあり、また文政4年に建立した大燈籠(高さ約2間)がある。



001\_岸劔神社000



002\_岸劔神社001



003\_岸劔神社002



004\_岸劔神社003



005\_岸劔神社004



006\_岸劔神社005



007\_岸劔神社006



008\_岸劔神社007



009\_岸劔神社008



010\_岸劔神社009



011\_岸劔神社010



012\_岸劔神社011



013\_岸劔神社012



014\_岸劔神社013



015\_岸劔神社014



016\_岸劔神社015



017\_岸劔神社016



018\_岸劔神社017



019\_岸劔神社018



020\_岸劔神社019



021\_岸劔神社020



022\_岸劔神社021



023\_岸劔神社022



024\_岸劔神社023



025\_岸劔神社024



026\_岸劔神社025



027\_岸劔神社026



028\_岸劔神社027



029\_岸劔神社028



030\_岸劔神社029



031\_岸劔神社030



032\_岸劔神社031



033\_岸劔神社032



034\_岸劔神社033



035\_岸劔神社034



036\_岸劔神社035



037\_岸劔神社036



038\_岸劔神社037



039\_岸劔神社038